

【目次】

1. メールマガジン発刊のご案内
2. 定例会プログラム
3. 次回定例会のご案内
4. 協会からのお知らせ
5. 定例会ダイジェスト
6. 編集後記

【1. メールマガジン発刊のご案内】

当協会の定例会では、様々な分野の方々から有意義な発表をしていただいておりますので、定例会の開催後には発表資料を Web に掲載する等の形で、できるだけ広く知っていただくよう取り組んできました。しかしながら、このままでは当協会の Web サイトにお越しいただかないと伝わらないので、新たにメールマガジンという形で、より積極的に情報をお届けすることにいたしました。

今後も定例会開催後や、会報「レジリエンス・ビュー」の発行時などのタイミングで、継続的に発行していきたいと思っております。

なお、このメールマガジンは、当協会会員の方々や、当協会（およびその前身のレジリエンス協議会、SEMI 日本地区 BCM 研究会）のセミナー等に参加された事のある方々にお送りしております。今後の購読を希望されない方は、このメールの最後にある問合せ先のメールアドレスまでご連絡ください。

【2. 定例会プログラム】

去る 8 月 22 日（水）に開催された定例会のプログラムは次の通りです。

具体的な内容については、後述の【5. 定例会ダイジェスト】をご覧ください。

(1) 「会長講話」林春男（京都大学防災研究所教授）

7 月 31 日に公表された「防災対策推進検討会議 最終報告」について、内容の概略と、委員会での議論についての報告。

(2) 「関連プロジェクトからの話題提供と近況報告」増田幸宏（豊橋技術科学大学准教授）

人工物・人口環境（Built Environment）と人間のコミュニティのあるべき関わり方についてなど 3 つの問題提起。

(3) 「静岡大学の安否確認システム」石井洋之（静岡大学客員教授）

充実した機能と安価な価格設定で中小企業を中心に好評を博している安否確認システムについて紹介。

(4) 「レジリエンスの現実、東日本大震災をとおして」國貞至（株式会社リッジ 代表取締役）

「風評被害が復興の足かせとなっている」被災地の現実を現場で知ること、土地勘を持つことの

重要性を指摘。

(5) 「東日本大震災、被災地はいま」 富田きよむ（報道カメラマン）

多くの写真を紹介。「チェルノブイリはまだ終わっていない。東日本大震災の現実がマスメディアで報道されなくなっている」強い危機感とともに、被災地への関心の薄れと誤解、復興の遅れについて問題提起。

(6) 「被災地の現状と問題点」 横山英子（復興庁復興推進委員会委員・仙台経済同友会幹事）

被災地の復興の現状について説明。「行政と地域住民の関係が必ずしもうまくいっていない。各分野の専門家が仲立ちとなる必要性を痛感している」

【3. 次回定例会のご案内】

日時：2012年11月12日（月） 13:00 - 17:00

場所：京都大学 東京オフィス <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>

参加費用：無料

プログラムは決まり次第、当協会 Web サイトにてご案内します。

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

【4. 協会からのお知らせ】

当協会の活動は主に会員の皆様からの会費で成り立っています。当協会の活動にご興味をお持ちの方で、まだ入会されていない方は、ぜひご入会をご検討ください。個人会員の年会費は10,000円（消費税込）です。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

http://www.resilience-japan.org/aboutus/application_form

【5. 定例会ダイジェスト】

日時：2012年8月22日（水） 13:20 - 17:00

場所：京都大学 東京オフィス <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>

プログラム：

(1) 「会長講話」 13:20 - 13:50

林春男（京都大学防災研究所教授）

7月31日に公表された「防災対策推進検討会議 最終報告」について、内容の概略と、委員会での議論について、報告いただきました。

報告書は下記サイトからダウンロードできますが、一枚にまとめられた「要旨」では端折られた部分が多く、委員会での議論の結果が十分反映されているとは言えないようなので、我々としては報告書本体を読むべきでしょう。

<http://www.bousai.go.jp/chubou/suishinkaigi/index.html>

(2) 「関連プロジェクトからの話題提供と近況報告」 13:50 - 14:20

増田幸宏（豊橋技術科学大学准教授）

(a) レジリエントな都市構想に基づくエリアリスクマネジメントと、地域コミュニティ・ディベ

ロップメント

東京都新宿区や中野区の都市再開発プロジェクト、東海地域臨海部工業地域（ものづくり産業集積地）の事例を交えて、人工物・人工環境（Built Environment）と人間との親和性を高めるための新しい技術とコミュニケーションのあり方に関する研究の状況について報告いただきました。

(b) 大学における BCP の策定について

増田先生が勤務先の大学で現在取り組まれている、大学の BCP 策定における現状と課題について報告がありました。

(c) 技術者倫理とレジリエンスについて

これからの技術者（特に設計者）が、より豊かで質の高い創造的な設計行為を続けていくには、その礎としての志や誇りだけでなく、困難に負けずに難局を乗り切り、乗り越える力が必要であり、これは技術者に求められるレジリエンスと呼べるのではないか、という問題提起がありました。

(3) 「静岡大学の安否確認システム」 14:20 - 14:50

石井洋之（静岡大学客員教授）

静岡県立大学で 1999 年に独自開発された安否確認システムが、2009 年に静岡大学用に改良され、現在も運用されているそうです。静岡大学の教職員、学生ほとんど全員が既に登録しているとの事。さらにこれを、主に中小企業向けの製品として（株）アバンセシステム（<http://www.avancesys.co.jp/>）が商品化したそうです。中小企業向けということで、非常に安価な価格設定になっています。

(4) 「レジリエンスの現実、東日本大震災をとおして」 15:10 - 15:30

國貞至（株式会社リッジ 代表取締役）

今回の定例会に富田きよむ様と横山英子をご紹介いただきました。

以下、國貞様からのコメントの一部を抜粋します。

「風評被害が復興の足枷になっている。また、被災地に足を運んで皮膚感覚で現場を知ること、被災地域に関する土地勘を持つことが、根拠のない風評被害を防ぐために大事である。」

「中小企業の復旧にあたって、「近くの異業種」および「遠くの間業種」との繋がりが大きな役割を果たしている。」

「被災地へ出掛け、実際に眼で見、匂いをかぎ、被災者の声に耳を傾け、そして足を運び続けていただきたい。」

今回お招きしたのは、その点から現地を良く識るお二人です

(5) 「東日本大震災、被災地はいま」 15:40 - 16:10

富田きよむ（報道カメラマン）

震災直後から度々現地に足を運んで撮影された写真を見せていただきながら、様々な問題提起がありました。とても文章では表現しきれませんがコメントの一部をご紹介します。

「多くの人々が既に過去のものだと思ってしまっているが、チェルノブイリはまだ終わっていない。「石棺」は脆弱なもので原子炉解体の技術的目処も立っていない。放射能汚染も続いている。

しかし今でもチェルノブイリの地に住む方々から学ぶべきことがある。」

「瓦礫が撤去されたように見えるが、地域の中で平行移動されただけで、処分は進んでいない。さらに今後は建物の基礎部分の瓦礫が出てくるはずなので、もっと増える。」

「海産物の放射線量は市場で毎日全品検査されている。こういう取り組みをされていることが全然伝わっていない。結果として風評被害が収まらない。」

「本当に伝えたい情報を伝える機会がない。雑誌などのメディアからは、もう売れないと思われると採用されない。」

(参考) 富田きよむフォトメールマガジン

<http://www.agrico.org/tomita/mel-maga/pey/01.html>

(6) 「被災地の現状と問題点」 16:10 - 17:00

横山英子 (復興庁復興推進委員会委員・仙台経済同友会幹事)

復興庁ホームページ (<http://www.reconstruction.go.jp/>) に掲載されている資料を示しつつ、被災地復興の現状についてお話いただきました。以下、横山様からの説明の一部をご紹介します。

「瓦礫処理はひとつの産業になっている。中でも瓦礫の分別作業は最終的には手作業になっており、被災地における雇用にも繋がっている。ただし被災された方々が瓦礫の処理作業に従事するのは、心情的には辛い部分もあると思う。」

「行政と地域住民との間の関係が必ずしもうまくいっていない、というのが、各地域の復興計画がなかなか進まない理由の一つなのではないか。例えば行政用語が分かりにくい、というような問題が壁になっている。また補助金制度の運用が始まっているが、申請書の記入など手続きが困難という問題もある。いま必要なのは、各分野の専門家が、行政と地域住民の間の仲立ちをしていくことなのではないかと考えられる。しかしながら現状では、なかなか民間の人材が行政の業務に入っていけていない。行政側の自前主義に阻まれている部分があるのではないか。」

「墨が有名な三重県鈴鹿市と、硯が有名な宮城県石巻市(雄勝硯)など、民間どうしで日頃からのつながりが復興に役立っている例がたくさんある。」

また、たまたま被災前にテレビに取材されたことが縁で始まった「荒波牡蠣復活委員会」のエピソードや、被災地応援ファンドを展開している「ミュージックセキュリティーズ」が紹介されました。

荒波牡蠣復活委員会

<http://www.aranami-kaki.com/>

<https://www.facebook.com/aranamikaki>

ミュージックセキュリティーズ

<http://www.musicsecurities.com/>

【6. 編集後記】

今回初めて、定例会の内容をダイジェストにしてみました。当協会の活動内容を分かりやすくするために、多少なりとも寄与できればと思いますが、実際には話を聞きながら記録していくのは

非常に難しく、特に大事な話のときは手が止まってしまうので、肝心なところをお伝えできていないような気がします。言い訳っぽくなりますが、ぜひ一人でも多くの皆様に、こういった有意義なお話を生で聞いて頂きたいと思います。

=====

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>

- ※ 本メールマガジンに関するお問い合わせや、購読中止に関するご連絡は、メールにて「info@resilience-japan.org」までご連絡ください。
- ※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。
- ※ 本メールマガジンは原則として当協会定例会開催後に発行します。

=====